

企画情報部報（平成二十七年年度）

組織改定（平成二十八年四月一日付を含む）

企画情報部は平成二十八年四月一日付で文化財情報資料部と名称を変更した。

企画情報部情報システム研究室は平成二十八年四月一日付で文化財情報資料部文化財情報研究室と名称を変更した。

企画情報部文化形成研究室は平成二十八年四月一日付で文化財情報資料部日本東洋美術史研究室と名称を変更した。

異 動（平成二十八年四月一日付を含む）

企画情報部アシエイトフェロー橋川英規は平成二十七年七月一日付で同部文化財アーカイブズ研究室研究員に採用された。

東京文化財研究所副所長田中淳は平成二十八年三月三十一日付で定年退職し、四月一日付で文化財情報資料部客員研究員となった。

企画情報部長山梨絵美子は平成二十八年四月一日付で東京文化財研究所副所長に昇任した。

保存修復科学センター副センター長佐野千絵は平成二十八年四月一日付で文化財情報資料部長に昇任した。

文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長津田徹英は平成二十八年四月一日付で上席研究員となった。

保存科学センター（旧保存修復科学センター）副センター長早川泰弘は平成二十八年四月一日付で文化財アーカイブズ研究室兼務を免ぜられた。

保存科学センター保存環境研究室長吉田直人は平成二十八年四月一日付で文化財アーカイブズ研究室兼務となった。

オーブンレクチャー

第四十九回目のオーブンレクチャーは、「モノ／イメージとの対話」をテーマに掲げ、研究所セミナー室において左記の通り開催した。

企画情報部報

十月三十日（金曜日）午後一時半～四時半

仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰

十世紀の画師たち―アジア絵画史から見た「和様化」の諸相―

皿井 舞

神戸大学 増記 隆介

十月三十一日（土曜日）午後一時半～四時半

与謝蕪村の絵画に見る和漢

池大雅の山水画を考える―二つの「六遠図」を手がかりに―

安永 拓世

静岡市美術館 吉田 恵理

研究会

四月二十一日

世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論

二神 葉子

六月四日

伝祇園南海筆「山水図巻」（東京国立博物館蔵）について

安永 拓世

在外コレクションにみる近代日本画家とその作画活動

―メトロポリタン美術館所蔵「プリンタリー・アルバム

（近代日本画帖）」の成立と受容を中心に―

セインズベリー日本藝術研究所 富澤・ケイ・愛理子

六月九日

鼎談「かたち」の生成をめぐって
―イケムラレイコの場合―

イケムラレイコ

山梨 絵美子

皿井 舞

六月三十日

南紀下向前の長沢芦雪・禅林との関わりをめぐって

コロンビア大学 マシユウ・マツケルウェイ

八月三十一日

黒田清輝宛岡田三郎助書簡 翻刻と解題

福岡県立美術館 高山 百合

岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像

九月二十九日 絹生産における在来技術について
佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 松本 誠一

『法華山一乗寺蔵 国宝聖徳太子及天台高僧像 光学調査報告書―カラー画像編―』
平成二十八年三月

絹織製作研究所 志村 明

コメンテーター 絹織製作研究所 秋本 賀子

十一月二十四日 徳川吉宗が先導した視覚と図像の更新について

―岡本善悦豊久の役割を中心に―

日本学術振興会特別研究員 加藤 弘子

十二月二十二日 「紅白芙蓉図」改装の可能性と受容について

保存修復科学センター 石井 恭子

一月十三日 研究会 美術史家矢代幸雄における西洋と東洋

ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点

山梨 絵美子

東洋人の眼から見たサンドロ・ボッティチェリ―

矢代の一九二五年のモノグラフ―

ハーバード大学ルネサンス研究センター

ジョナサン・ネルソン

矢代幸雄著『受胎告知』を再読する

東京藝術大学 越川 倫明

矢代幸雄の絵巻研究

東京大学 高岸 輝

矢代幸雄と一九三〇～四五年代の中国美術研究

二月二十三日 光琳の「道崇」印作品について

東京大学東洋文化研究所 塚本 磨充

―尾形光琳の江戸滞在と画風転換―

江村 知子

三月二十九日 狩野山雪筆「武家相撲絵巻」一巻について

東京国立博物館 山下 善也

刊行物

『日本美術年鑑 平成二十六年版』

平成二十八年三月

本誌第四一八号掲載の研究資料「黒田清輝、久米桂一郎宛 藤島武二書簡(三) 承前」の訂正

翻刻を以下のように訂正します。

八十八頁～八十九頁・書簡番号49

四行目「趣傳承居」↓「趣傳承仕」

六行目「早速敬候」↓「早速敬候」

十三行目「単に」↓「單ら」

十四行目「先々」↓「先ハ」

封筒裏「東京市内」↓「東京本郷」

(児島 薫)